



◆活動予定◆

国際シンポジウム

「アジア・太平洋地域における適応ネットワークの協力」

日時：2011年1月17日(月) 9:30~17:30
場所：茨城大学水戸キャンパス 理学部インタビュースタジオ
主催：環境省戦略研究 S-8-3 国際班
茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS)

本シンポジウムでは、アジア・太平洋や世界の適応ネットワークに関する情報と経験の交換を行うとともに、ネットワークの役割の確認と融合の可能性を議論します。

プログラム等の詳細はHPをご覧ください。
URL：
<http://www.climatejapan.org/icas/>

お問い合わせ
ICAS 本部 TEL/FAX 029-228-8787
E-mail icas@mx.ibaraki.ac.jp



◆ Hello From ICAS ◆

たくさんの外国人研究者の先生方が来日され、シンポジウム・セミナーでの講演やミーティングに参加されました。

★ジョン・エドワード・ハイ氏(写真右)
(ニュージーランド・リンカーン大学)



農学部国際シンポジウムにて

★スワニット・チャイナーク氏
★サイサン・トロンポン氏(写真下)
(タイ・プークット・ラチャパット大学)



ICAS 本部にてミーティング

★農学部国際シンポジウム講演の先生方



パネルディスカッションの様子

2010年度 ICAS カレンダー

4月	新年度スタート 4/12 第1回 ICAS セミナー 4/19 第2回 ICAS セミナー	10月	10/4 第12回 ICAS セミナー 10/5 第1回環境省(S-8-3)セミナー 10/18 第13回 ICAS セミナー 10/30 第1回「サステナビリティ学最前線」(大学院)
5月	5/10 第3回 ICAS セミナー 5/24 第4回 ICAS セミナー 5/28 ICAS キック・オフ・ミーティング	11月	11/1 第14回 ICAS セミナー 11/2 第2回環境省(S-8-3)セミナー 11/6-7 日本平和学会秋期研究集会(ICAS 共催) 11/6 第2回「サステナビリティ学最前線」(大学院) 11/13 第3回「サステナビリティ学最前線」(大学院) 11/15 第15回 ICAS セミナー 11/15 UN-CECAR シンポジウム(スリランカ) 11/17 3者連携シンポジウム(三の丸ホテル) 11/24 ICAS・ELIAS 教育シンポジウム
6月	6/7 第5回 ICAS セミナー 6/12 第1回「サステナビリティ学入門」(学部) 6/21 第6回 ICAS セミナー 6/23-25 ICSS-Rome(ローマ) 6/26 第2回「サステナビリティ学入門」(学部) 6/28 W-BRIDGE 最終報告セミナー 6/29-7/1 オーストラリア適応国際会議	12月	12/6 農学部国際シンポジウム 12/11-13 大学の役割シンポ(ハノイ) 12/13 第16回 ICAS セミナー 12/22 第17回 ICAS セミナー 12/27 第3回環境省(S-8-3)セミナー
7月	7/5 第7回 ICAS セミナー 7/10 第3回「サステナビリティ学入門」(学部) 7/20 第8回 ICAS セミナー 7/23 グリーン・イノベーション・シンポジウム 7/27-30 ベトナム国家大学・集中講義(ハノイ)	1月	1/11-14 IPCC・WGII 会合(つくば) 1/17 ICAS&環境省(S-8-3)プロジェクト合同国際シンポジウム 1/20 ICAS 第一部門セミナー「地球規模環境問題研究会」 ICAS セミナー
8月	8/2 第9回 ICAS セミナー 8/22-28 Cities at Risk ワークショップ(バンコク) 8/21-29 国際実践教育演習(プークット)	2月	ICAS セミナー 2/12 IR3S 公開シンポジウム
9月	9/6 第10回 ICAS セミナー 9/13-15 国内実践教育演習(大洗) 9/14-15 ソウル大学ジョイントセミナー 9/20 適応策国際フォーラム(バンコク) 9/21 第11回 ICAS セミナー	3月	3/2-4 ICSS-Asia(ハノイ) 3/4 サステナ・フォーラム + 第4回学生サステナ・フォーラム(阿見) ICAS セミナー

*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp



◆ 活動報告 ◆

茨城大学・茨城県・茨城産業会議三者連携シンポジウム
茨城における温暖化対策の見通し
—猛暑の夏を経験して—

11月17日(水)に水戸三の丸ホテルにて講演会「茨城における温暖化対策の見通し—猛暑の夏を経験して—」が開催されました。

池田幸雄学長の地質学の視点から見た地球温暖化と現在の対策の緊急性に関する開会挨拶に続き、及川義教氏(気象庁)による「異常気象と地球温暖化～2010年夏を振り返る～」と題した講演を頂きました。今年の水戸市の夏の暑さは8月の平均気温で比較すると+2.8℃であり、記録のある113年間の中でも観測史上1位の高温だったそうです。

加藤亮氏(農学部)は「地域社会と連携したバイオ燃料社会の構築」ということで、耕作放棄地問題への対応を視野にいれたスイートソルガムの多面的な活用法と研究プロジェクトの概要を講演して頂きました。



大和田順子氏(LBA)は「サステナブルな社会のかた—“ロハス”で変えるライフスタイル—」と題し、健康と思いやりを視点に据えたロハス(Lifestyles Of Health And Sustainability)という概念や地域に根をおろした「新・上流社会」に学ぶ持続可能な社会モデルについて講演頂きました。

最後は、パネル討論「茨城における低炭素社会の取り組み」で、講演者3名に加えて、原口弥生氏(人文学部)、三村信男氏(ICAS 機関長)が登場し、主に会場からの質問に答える形で茨城における温暖化対策の見通し等に関する討論を行いました。



本講演には、雨天にもかかわらず120名弱の参加者を迎えることができました。この背景には、県内の自治体や企業、地球温暖化防止活動を推進している個人や団体の方々などが、この問題に強い関心をもっておられると考えられます。

今回は茨城における温暖化対策の見通しを論じましたが、今後はさらに実践に踏み出す方策を論ずることが求められています。



写真右上：加藤准教授講演の様子
写真右中：パネルディスカッションの様子
写真右下：「茨城大学発：持続可能な世界へ」の販売も行いました

◆活動報告…速報！◆

茨城大学農学部国際シンポジウム

「持続的農業に関するアジア・コンソーシアムの構築」

12月5日(日)～6日(月)にかけて農学部阿見キャンパスにて、茨城大学主催の国際シンポジウム「持続的農業に関するアジア・コンソーシアムの構築」が開催されました。

本シンポジウムは、農業と環境の両者を見据えた次世代の研究および教育についての国際交流を目的として行われ、海外からはアメリカ、カナダ、ニュージーランド、インドネシア、タイ、スリランカ、バングラデシュからと多くの国々からの教員、研究者、そして学生の参加がありました。

盛りだくさんの内容で、今号には収まりきりませんでした。詳細は次号にお伝えしますので、ぜひお楽しみに！



◆メンバー紹介◆

Frank・Hiroshi・Ling

(フランク・ヒロシ・リング)

ICAS研究員



はじめまして。フランク・ヒロシ・リングと申します。宜しくお願い致します。九月からICASで働き始めました。皆さんとても暖かく歓迎してくれて、すぐ慣れました。有り難うございます。水戸は緑が多くてゆったりする生活ができています。

私はもともとカリフォルニア出身ですが、二年前日本にきました。出身大学はカリフォルニア工科大学で博士号はカリフォルニア大学のパークレー校からもらいました。専門は化学ですがエネルギー政策とサイエンス・コミュニケーションも勉強しました。インターネットで化学番組(www.groks.net)を監督しています。

趣味は海水浴、テニスと卓球です。そして音楽も好きなのでピアノとヴァイオリンも時々練習します。これから色々お世話になると思います。どうぞ宜しくお願い致します。

◆活動報告◆

ICAS・ELIAS 教育シンポジウム
大学院教育を再考する

～フィールド演習の実践から見る教育の理念～

11月24日(水)にICAS 教育部会が中心となり、環境省ELIASと共催で教育シンポジウムを開催しました。

前半には、中川光弘氏(茨城大学農学部教授)の基調講演「大学教育への時代的要請と実践演習の役割」に始まり、近年茨城大学で多様に展開されているフィールド演習を活用した教育実践について報告いただきました。具体的には、田村誠氏(ICAS 准教授)より「サステナビリティ学教育プログラム」について、加藤亮氏(農学部准教授)より「農学研究科インドネシア演習」について、橋浦洋志氏(教育学部教授)より「教育研究科 GP」について、ご紹介いただきました。また、学外の優れた実践事例として、小貫元治氏(東京大学新領域創成科学研究科特任准教授)より「東京大学サステナビリティ学教育プログラム」について、大槻知史氏(高知大学総合教育センター准教授)・石筒寛氏(高知大学人文学部准教授)より「高知大学学士課程における社会協働教育プログラム」についてご紹介いただきました。

第一部の報告では、プログラムに実際に参加した学生さんにも、率直な感想や改善点を述べてもらいました。第二部では、フィールド演習を活用したこれからの教育の可能性について、ディスカッションを行い、学生を交えての活発な意見交換の場になりました。



Editor's Note

師も走る師走、との通りICASの先生方・事務スタッフともに駆け抜けた12月でした。ふと気付けばもう年末、皆様今年もお世話になりました。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

H・A

